

畠山公開シンポジウム

西洋における中国／日本

—17～19世紀のシノワズリーとジャポニスム—

主催： ジャポニスム学会
共催： 公益財団法人畠山文化財団
日時： 2011年11月5日(土) 10時15分～16時30分
会場： 根津美術館（東京都港区南青山6-5-1）B1F 講堂
参加対象： 一般公開（会員入場無料、非会員1000円、非会員学生500円）
お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。



開催趣旨

17～18世紀の西欧において、東洋美術の影響を受けた美術工芸が多数出現しました。それらは「シノワズリー」と総称されていますが、じつは、中国からだけでなく日本からの影響が混在しています。プレ・ジャポニスムというべきシノワズリーの時代、いかなる日本の美術品がどのように愛好されたのでしょうか。それは19世紀のジャポニスムと関連しているのでしょうか。こうした問いかけを軸に、西洋における中国／日本を総合的に捉え直し、日本や中国の影響が世界的規模となった今日の国際交流の意味を問い直します。

プログラム

午前部

開会の辞・挨拶

岡部昌幸（ジャポニスム学会理事長、帝京大学教授）

西田宏子（根津美術館副館長）

基調講演 「エグゾティスムとしてのシノワズリーとジャポニスム」 坂本満（ジャポニスム学会会長）

「異国趣味、14～19世紀のヨーロッパのシノワズリー」

フランチェスコ・モレーナ（フィレンツェ美術館所轄文化財監督局）

午後部

発表

「東洋風小部屋の装飾における『漆(japan)』」 日高薫（国立歴史民俗博物館教授）

「ドイツ王侯による肥前磁器収集と陳列室の意匠」 桜庭美咲（国立歴史民俗博物館 機関研究員）

「1940年代の曙光 - 日本におけるシノワズリー／ジャポニスム研究史から」 岡部昌幸

シンポジウムフォーラム 「シノワズリーとジャポニスムのはざままで」

コメンテーター： 水田至摩子（畠山記念館学芸課長）

宮崎克己（美術史家）

司会： 藤原貞朗（茨城大学准教授）

★17時15分より、近在の別会場で懇親会(会費制)を行いますので、奮ってご参加ください。

★連絡先：ジャポニスム学会ホームページ <http://www.world-meeting.co.jp/japonisme/>